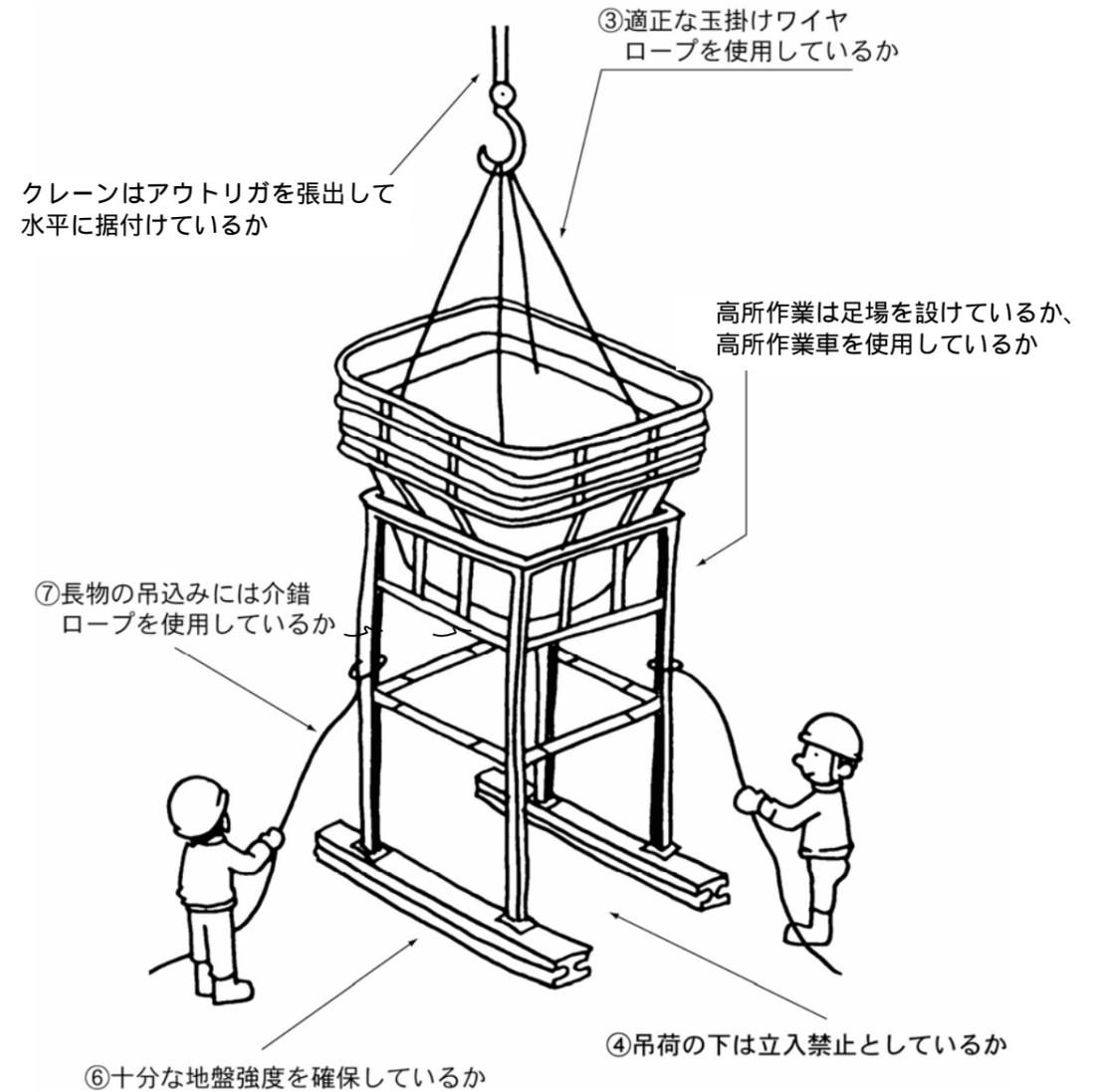


ニューマチックケーソン工

確認年月日： _____
 天 候： _____

記入者 _____

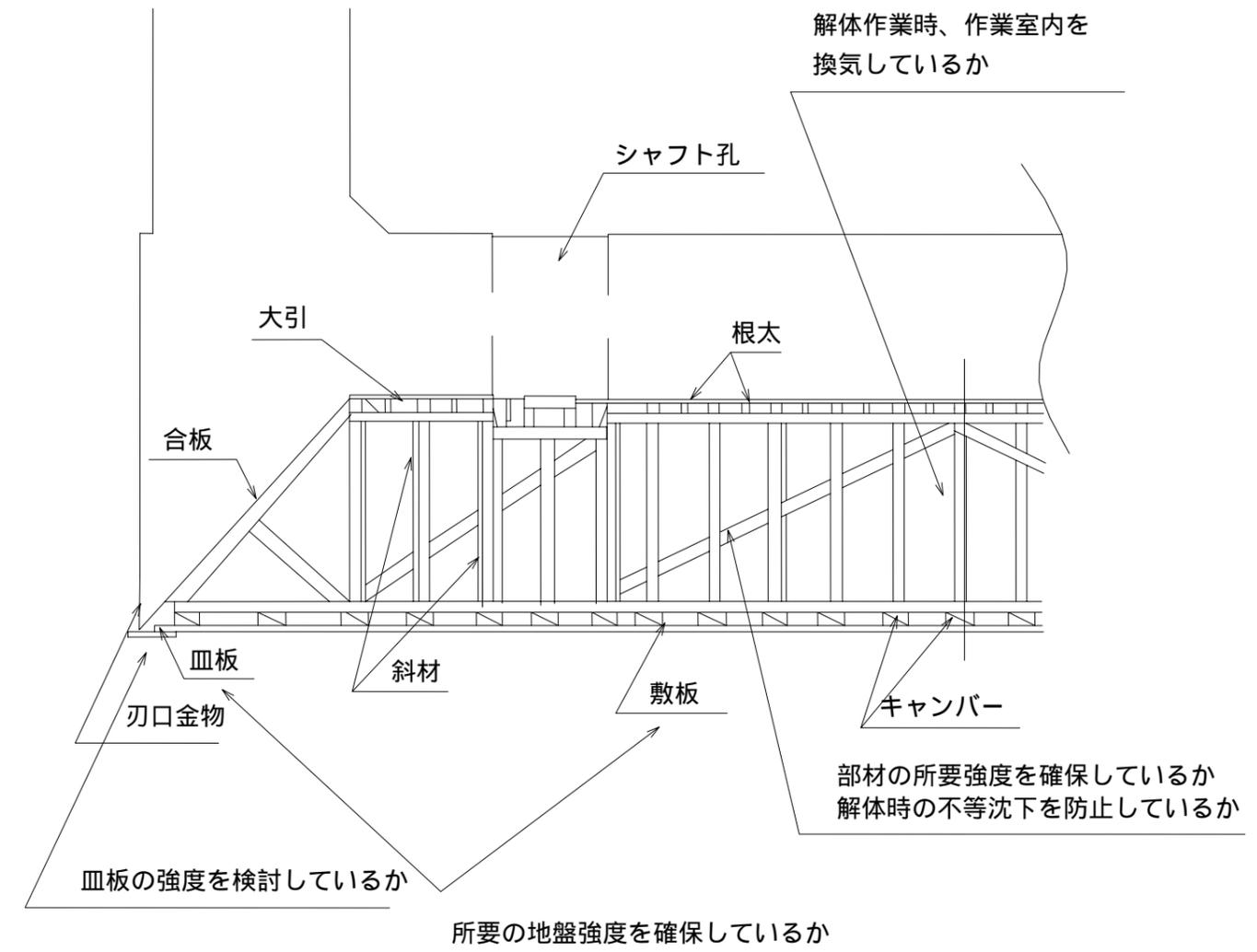
作業工程	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
1. 準備作業	(1) 作業前打合せ (2) 作業開始前点検 (3) 立入禁止措置	<ul style="list-style-type: none"> 作業員全員で実施する。 作業内容を説明・指示する。 必要資格を確認し、人員・機械の配置をする。 新規入場者に対する教育を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 点検表により実施する。() (後図参照) 送気設備等の作業開始前点検を実施する。 送気設備、掘削機械類の作業開始前点検を実施する。 掘削機械類の作業開始前点検を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 関係者以外立入禁止措置をする。 				
2. 土砂ホッパの組立	(1) ホッパ部組立て (2) 脚部組立て (3) ゲート部組立て (4) 本体起し、据付け (5) ゲート部取付け (6) 油圧ユニット取付け、電気配線	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の状況を確認する。 クレーンはアウトリガを張出し、水平に据付ける。() 適正な玉掛けワイヤロープを使用する。() 吊荷の下は立入禁止措置をする。() <ul style="list-style-type: none"> 高所作業は作業足場を設けるか、高所作業車で実施する。() 十分な地盤強度を確保する。() 長物吊込み時は介錯ロープ使用する。() <ul style="list-style-type: none"> 正確な重量を把握し、適正な玉掛けワイヤロープを使用する。() 衝撃の無いよう、ゆっくり巻上げる。 吊荷の下は立入禁止措置をする。() 高所作業は作業足場を設けるか、高所作業車を使用する。() 				
3. 送気設備の設置	(1) 基礎工 (2) 据付け (3) 上屋建方 (4) 配管 (5) 電気配線 (6) 試運転 (7) 再圧室の設置	<ul style="list-style-type: none"> 十分な地盤強度を確保する。 吊荷の重量を正確に把握する。 クレーンはアウトリガを張出し、水平に据付ける。 適正な玉掛けワイヤロープを使用する。 吊荷の下は立入禁止措置をする。 <ul style="list-style-type: none"> 溶接作業時には保護具を使用する。 火気使用箇所には消火器を設置する。 電気工事士による。 各部低圧の配線をする。 各装置の作動状況、各種ゲージ、配管漏気等をチェックする。 試運転してデータを記録する。 高圧作業 (0.1Mpa 以上) を行う場合は、応急処置用の再圧室を設置する。 				



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

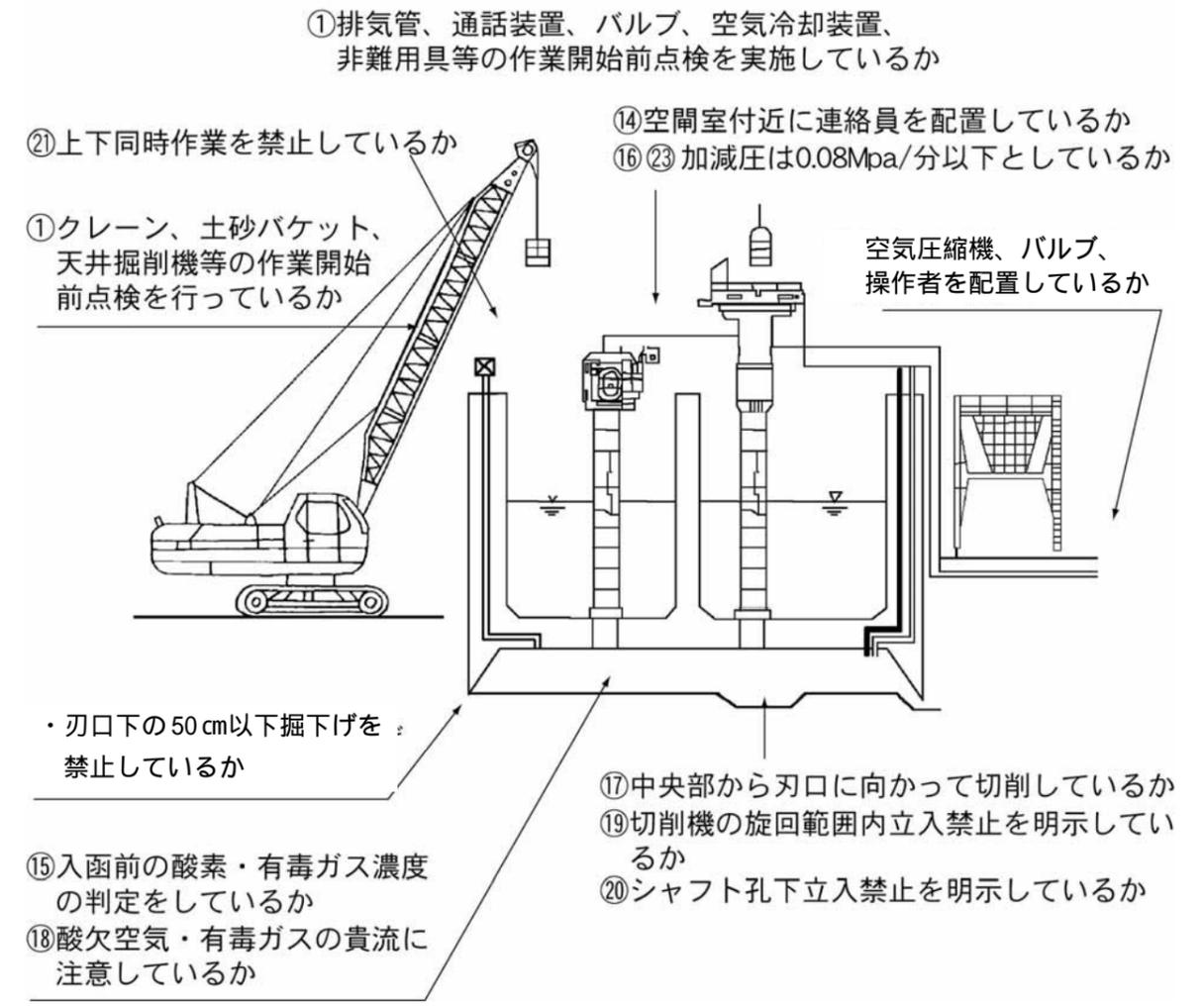
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック			
4. 刃口金物据付け	(1)整地 (2)刃口金物据付け (3)組立て完成検査	<ul style="list-style-type: none"> ・所要地盤強度を確保する。() ・地盤状況により皿板の強度を検討する。() ・転倒しないように仮固定する。 ・クレーンはアウトリガを張出し、水平に据付ける。 ・適正な玉掛けワイヤロープを使用する。 ・吊荷の下は立入禁止措置をする。 ・均等荷重となるようにする。 ・刃口金物と皿板の接触状況を確認する。 				
5. 作業室構築	(1)整地 (2)支保工組立て (3)内型枠組立て (4)埋込物取付け (5)鉄筋組立て (6)外型枠組立て (7)生コンクリート打設 (8)型枠、型枠支保工の解体	<ul style="list-style-type: none"> ・所要地盤強度を確保する。() ・設計計算書に基づいた部材の所要強度を確保する。() ・縦吊の場合は、抜落ち防止措置を実施する。 ・クレーンはアウトリガを張出し、水平に据付ける。 ・適正な玉掛けワイヤロープを使用する。 ・吊荷の下は立入禁止措置をする。 ・配管等は作業指揮者の指示により実施する。 ・コンクリート打設時の作業足場を確保する。 ・コンクリート打設手順を確認する。 ・ホース先端を直接持たない。 ・ミキサー車誘導員を配置する。 ・偏荷重とならないよう均等に打設する。 ・作業室内を換気する。() ・解体時の不等沈下防止する。() ・事前に解体順序を打合せする。 				
6. 天井走行式掘削機組立て	(1)組立用テーブルリフター据付け (2)天井掘削機組立て (3)組立て検査、試運転	<ul style="list-style-type: none"> ・ブザー等により函内外の合図を確実に実施する。 ・油圧ホースの誤接続により通常の逆に動く事があるので、試運転開始前に周囲の安全を確認する。 ・電力線を結線し、接地を行い、漏電遮断機の作動テストを実施する。 ・試運転し、リストに基づいて各部の作動をチェックする。 				
7. ぎ装	(1)スペシャルシャフト組立て (2)シャフト、ロック組立て (3)漏気防止モルタル打設 (4)総点検 (5)第二ロット以降のぎ装	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順書の内容を確認する。 ・上下ロックの接続は内ボルトなので、ロック内では安全ブロックを使用して作業する。 ・スペシャルシャフトの周囲にモルタルを打設し、漏気防止措置を実施する。 ・ぎ装完了後、総点検を行い異状の有無をチェックする。 ・マテリアルシャフト内昇降時には、安全ブロックを使用する。 				



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

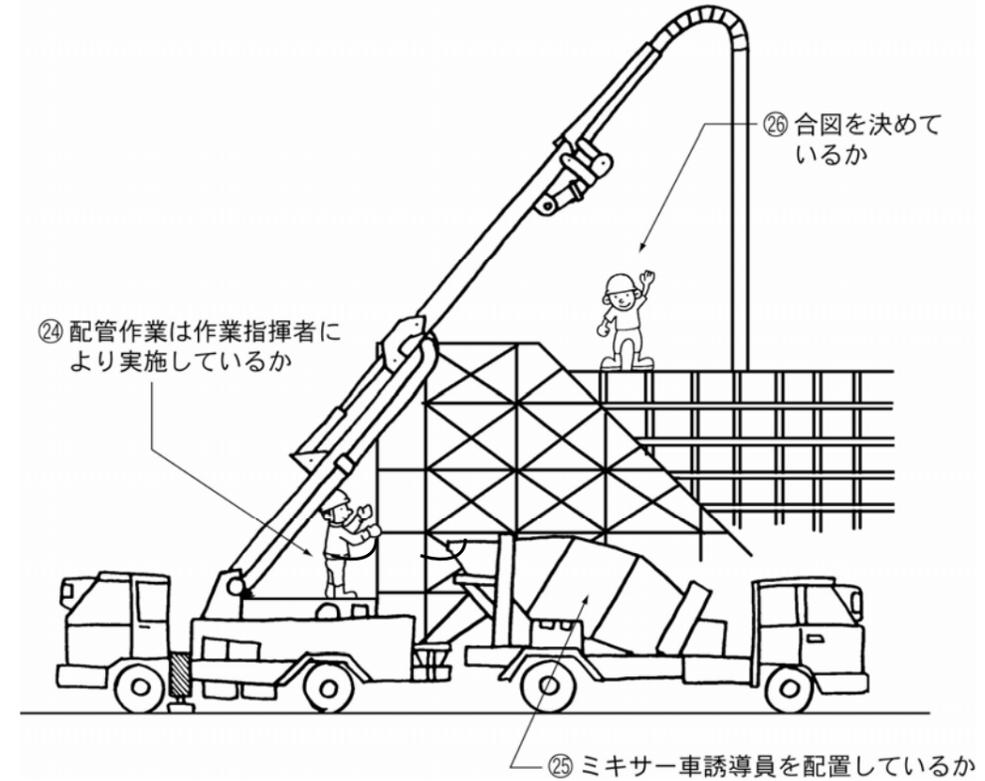
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
8. 沈下掘削	<p>(1)入函</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空気圧縮機、バルブ操作者を配置する。() ・ 空室付近に連絡員を配置する。() ・ 入函前に、作業室の酸素及び有毒ガス濃度を確認する。() ・ 加圧スピードは、毎分 0.08Mpa 以下とする。() ・ 高圧室内作業は特別教育修了者で実施する。 ・ 入退場者表示を確認する。 ・ 入函から退場までの間は、作業主任者の指示に従う。 ・ マンロックで加圧終了後、作業員の異状の有無を確認する。 ・ 緊急時の避難、連絡方法が常に解るようにする。 <p>(2)掘削</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掘削は、原則として作業室中央部から刃口へ向かって対称的に実施する。() ・ 不透水層や砂礫層、第一鉄塩類を含む地層を掘削する場合は、酸欠空気や有毒ガスに注意して作業する。() ・ 掘削機の旋回範囲内立入禁止措置をする。() ・ シャフト穴の下立入禁止措置をする。() ・ 土質により掘削方法が異なるので、作業主任者の指示に従って作業をする。 ・ バケット巻上げ時にクレビスピンを折曲げる。 ・ 専任の救護技術管理者を選任し、救護訓練等を実施する。 ・ 地盤の状況や変化に対応するよう内圧管理を適切に実施する。 ・ 刃口周辺の人力掘削は十分注意する。 ・ 上下同時作業を行わない。() <p>・ 掘削は、以下の繰返して作業</p> <ul style="list-style-type: none"> *アースバケット降下 *上ロック蓋閉め *下ロック蓋開け *バケット着地 *土砂をバケットに投入 *バケット巻上げ *下ロック蓋閉め *上ロック蓋開け *バケット巻上げ *土砂ホッパへ排出 <p>(3)沈下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刃口下の 50 cm 以上掘下げを行わない。() ・ 減圧及び排気沈下を行う場合には、作業員を潜函 外部へ退避させる。 ・ 沈下の都度、沈下関係図との相違を検討して沈下関係図を適宜修正する。 <p>(4)退函</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 減圧スピードは、毎分 0.08Mpa 以下で実施する。() ・ 退函後、暫くは過激な運動は行わない。 ・ 退函後減圧症が発生した場合は、速やかな加圧・治療を実施する。 ・ 掘削機のメインスイッチ切断する。 ・ タラップや階段の登りに備えて長靴類の泥を落とす。 ・ 減圧時間表に従い、換気しながら減圧する。 <p>(5)床付け地盤の耐力確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監督員が確認する。 ・ 所要の地盤強度がある事を確認する。 					



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

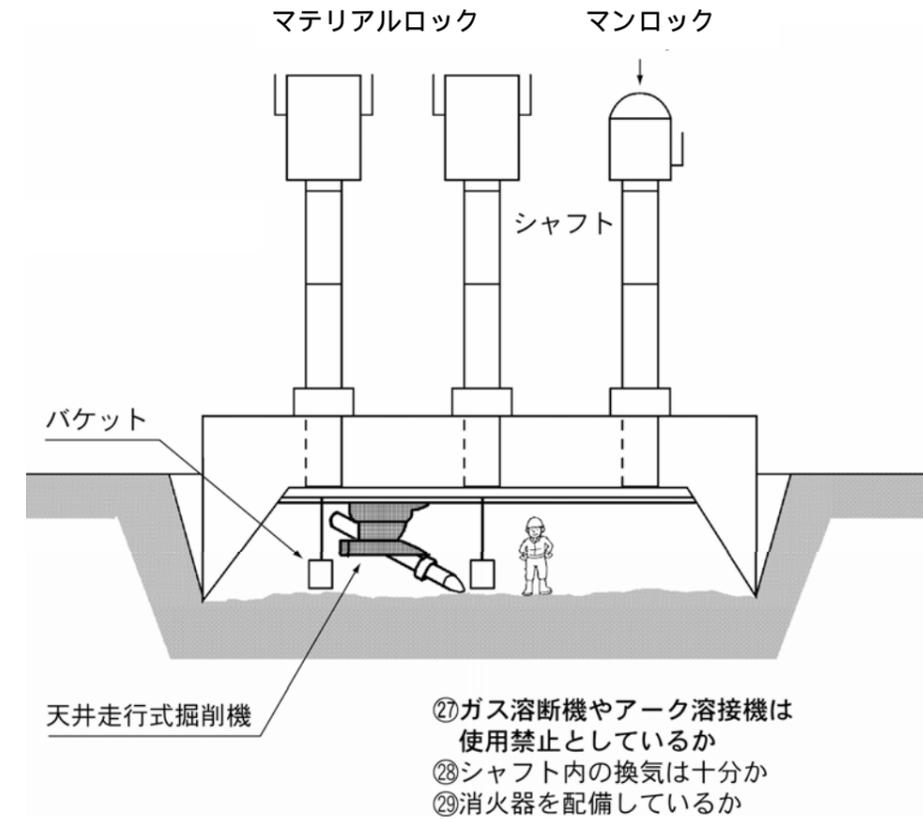
作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
9. 躯体構築	(1)作業足場組立て (2)内型枠組立て (3)鉄筋組立て ・クレーンで鉄筋の吊込み。 ・スペーサー取付け。 (4)外型枠組立て (5)コンクリート打設 ・ポンプ車で生コンを打設。 (6)型枠解体	<ul style="list-style-type: none"> ・上下作業は行わない。 ・介錯ロープを使用する。 ・パイプ等の抜け落ち防止措置を実施する。 ・吊荷の下は立入禁止措置をする。 ・縦吊りの場合は抜け落ち防止措置を実施する。 ・足場と鉄筋の間隔が大きい場合は、安全帯を使用して作業する。 <ul style="list-style-type: none"> ・上下同時作業を行わない。 ・介錯ロープを使用する。 ・パイプ等の抜け落ち防止措置をする。 ・配管等は作業指揮者の指示により実施する。 ・コンクリート打設時の作業足場を確保する。 ・コンクリート打設手順を確認する。 ・ホース先端を直接持たない。 ・ミキサー車誘導員を配置する。 ・不等沈下が生じないように均等に打設する。 ・上下同時作業を行わない。 ・介錯ロープを使用する。 ・パイプ等の抜け落ち防止措置を実施する。 				
10. 掘削機解体	(1)天井走行式掘削機の解体・撤去（掘削完了後）	<ul style="list-style-type: none"> ・解体・撤去の作業手順を確認する。 ・高圧の管内ではガス溶断機やアーク溶接機を使用しない。(・) 				
11. 中埋めコンクリート打設	(1)確認事項 (2)コンクリート打設 (3)打設完了	<ul style="list-style-type: none"> ・入函に先立って作業室の酸素濃度等を測定し、安全を確認する。 ・コンクリート打設時の連絡方法を確認する。 ・配管等は作業指揮者の指示により実施する。(・) ・ミキサー車誘導員を配置する。(・) ・合図を定める。(・) ・ブローパイプの前方の安全を確認する。 ・ブローパイプからブローさせて充填状況を確認する。 				



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

作業工種	作業手順	安全確認事項	チェック欄			
12. 解体 搬出	(1) ぎ装の解体・撤去 (中埋めコン打設 完了後) (2) 送気設備の解体 撤去 (3) 土砂ホッパーの 解体・撤去 (掘削完了後)	<ul style="list-style-type: none"> ・シャフト内で作業する場合には換気する。(・) ・火気を使用する場合には消火器を配備する。(・) ・ 高圧の函内ではガス溶断機やアーク溶接機を使用しない。 ・火気を使用する場合には消火器を配備する。 				
13. 後片 付け	(1) 機材片付け (2) 立入禁止措置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終業点検を点検表により実施する。 ・ 風散養生を実施する。 ・ 作業場所の資材の整理・整頓を実施する。 ・ 作業終了時に火気の確認をする。 ・ バリケードやトラロープなどで危険箇所を養生する。 				



(記事欄)

(記事欄には、確認の結果対処した事項を記入する事)

